

第 3779 図

かやつりぐさ科



ひらぎしすげ

Carex Augustinowiczii Meinsh.

シベリアから南下して北海道の湿地及び溪畔に緩い大株を作っている多年生草本。尾瀬以北の本州にもまた産する。高さ30-50cm、根茎は錯雑して集まり、茎と葉は淡緑色で軟かいが、茎は直立し、葉とほぼ同高、葉は2つ折れの稜が走り、巾3mm前後、基部には淡黄褐色の鞘状葉を伴う。6月頃に茎の上部に5個前後の円柱状穂をつけ、最下のものは長く時に稍と垂れるが2cm長内外、時にひどく短かく、雌花穎の暗紫黒色と果囊の淡緑とが交錯して美しい。雌花穎は狭卵状楕円形、2mm長、背部1脈で淡緑、果囊は熟時開出し3稜狭卵形で短嘴。柱頭3。和名は最初の採集地平岸村に因む。

第 3780 図

かやつりぐさ科



しらかわすげ

一名ぬまくろぼすげ

Carex Meyeriana Kunth

シベリア、満州から日本の湿地に分布する多年生草本。高さ30-50cm、葉が密生直立した株立をなし、匍枝はない。葉の基部には黒褐色、光沢のある鞘状葉を伴い、強剛である。葉は線形、暗緑色、鞘葉などの感じは多少イに似る。初夏に茎頂に赤褐色を帯びた細い雄穂を出し、これに接近して1-2の短かい雌穂をつけ、柄はない。雌花穎は卵状楕円形、鈍端、果囊は卵状楕円形で長さ3mm、乳頭突起で白味がある。柱頭3。和名は白河スゲで、産地の福島県白河を指し、同地方では刈って農家のみのを作るという。

第 3781 図

かやつりぐさ科



だけすげ

Carex paupercula Michx.

北半球の寒地の湿原に生ずる多年生草本。日本では信州御嶽及び、羽前吾妻山の湿地にみる稀産種。高さ20cm内外、叢生し、新茎は斜上してひろがる。葉は線形、多少灰色を帯びた緑色。7-8月頃に基端に雄穂を、側方に2-3個の雌穂を出し、細い花穂で垂れる。色、形、姿勢共にヤチスゲ(*C. limosa L.*)に似て瘠せて小さく、径5mm内外、赤褐色の雌花穎は広楕円形で尖り、果時脱落し易く、果囊は広楕円形でテウチグルミに似た形に膨らみ、長さ3mm許。表面に乳頭突起を密に布くため白くみえる。和名は嶽スゲで信州御嶽に発見されたのによる。

ふさなきりすげ

Carex teiogyna Boott
var. *scabriculum Kükenh.*
(=*C. scabriculum Ohwi*)

秋日に結実する点でナキリスゲに類する一種。葉は常緑に近く、叢生する。匍枝はない。関西から西の林下や溪畔の多少湿気のある処に生ずる。模式種はヒマラヤからビルマの産。ナキリスゲとの異点は金褐色に熟した果実に、果体に数倍する2本の同色の柱頭(長8mm)が宿存していることで、その為に穂がにぎやかである。果囊はうすい膜質で、汚緑色の瘠果をびったり包み、毛が散在、雌花穎は長楕円形で膜質、長さ5mm許金褐色で縦すじが多数通る。和名は総状の花序の姿に基づく。

じんぐろすげ

一名ひめなきりすげ

Carex sacrosancta Honda

伊豆三宅島及び関西以西の山地の林下にはえる多年生草本で、習性、形態ともにナキリスゲに近いが、全体に瘠せて細く、雌花穎は倒卵状楕円形で、淡黄褐色、紫色の脈が走り、果囊は該種のものよりも長くしかも却って細く瘠せた楕円形で両端に尖り、長さ3-4mmである点で区別される。柱頭は2本、果囊よりも短かく、また果時には落ち去ってない点でフサナキリスゲと区別できる。和名は神宮スゲで最初に伊勢神宮神域に発見されたのに因る。

たちすげ

Carex maculata Boott

熱帯アジアにひろく分布し、日本でも西南部から北上して青森に達する多年生草本。水湿のある林下溪側を好み、株立となる。全体に淡蒼緑色で稍と軟かいが、根茎は強剛で抜き難い。茎の長さ40-60cm、鈍3稜形で直立し、基部はわら色に枯れた旧葉鞘を伴う。葉は茎より短かく、巾4mm前後で、裏には乳頭毛を布く。6月頃茎頂に細い雄穂1個、稍と下がって狭柱状で長さ25mm内外の雌穂2-3を出し、茎葉と全く同一色、直立し、葉状苞あり、乾くと濃黄褐色となる。雌花穎は長楕円形、2mm、果囊は卵形、頂は小嘴、全体に基だしい乳頭突起を布き、数脈が竜骨状に隆起。

第 3782 図

かやつりぐさ科



第 3783 図

かやつりぐさ科



第 3784 図

かやつりぐさ科

